

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人 かながわアドバンスサポート

② 施設・事業所情報

名称：中丸子保育園	種別：保育所
代表者氏名：三井 淳子	定員（利用人数）： 120 名
所在地：川崎市中原区中丸子1155	
TEL：044-411-5559	ホームページ：
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和45年5月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：	
職員数	常勤職員： 17 名 非常勤職員 12 名
専門職員	保育士 15 名 看護師（再任用） 1 名
	栄養士 1 名 その他 1 名
施設・設備の概要	保育室 9室 給食室 1室 （設備等）園庭 ホール

③ 理念・基本方針

【保育理念】（川崎市公立保育園はすべて同じ保育理念）

【子どもの権利を保障し、未来を担う子どもたちの生きる力の基礎を育む保育】

【保育方針】

- ①養護と教育を一体的に展開し、子どもたちの発達の特性を踏まえた保育をする
- ②子ども一人一人の思いを受け止め尊重する保育をする
- ③すべての子どもに深い見守りと愛情をもち保育する
- ④相互の信頼関係を基本に、保育園・地域親子の子育て支援をする

【保育目標】

◎わくわく・ときどき・いきいき・のびのび・なかまるっこ

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

本園はJR南武線向河原駅から徒歩6分、南武線武蔵小杉駅から歩いて12分、多摩川近くの住宅地に立つ、鉄筋コンクリート造り市営住宅5階建ての1階部分を占有している川崎市立保育所です。昭和45年開設で定員120名ですが0歳児は規定により在籍して居りません。

床面積567.45平米。川崎市は保育所の民営化が終わり、「新たな公立保育所」構想を進めていて、7区21園を基幹保育所として機能強化を図っています。待機児童の増加を受けて新たな民間保育所が増え続け、これらに対する支援の充実や指導監督の強化と、現場でのノウハウやスキルを継承するために、各区にセンター園とランチ園2計3園を「新たな公立保育所」として選定しています。中原区ではセンター園が中原保育所、ランチ園が当中丸子保育所と下小田中保育所が指定され、残りの公立保育所はすでに民営化されています。ランチ園の役割は、中原区域内の「地域のこども 子育て支援」「民間保育所等への支援」を実施するとともに、「公・民保育所人材の育成」も行うことです。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年9月24日（契約日） ～ 2022年2月17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3 回（2017年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 「わくわく いきいき のびのび」とする子どもの姿を連日、保護者へ見せる
本園の「大事にしていること」の一番目にあるのが保育目標「わくわく ときどき
いきいき のびのび」の“見える化”です。子どもたちが日々成長する姿を写真など
見えるもので保護者に提供することで保護者へ満足して頂こうという試みです。

今日は何しようか？明日は？と期待感でわくわくする姿、新しいことは緊張するけ
どそのときどき感、朝の体操、マラソンでいきいきする姿、体を十分に伸ばし、歌っ
たり踊ったりのびのびする姿、毎日の遊びの中からこれらの躍動する姿をピックアップ
して写真に収め、即日廊下に掲示し保護者に知らせています。子どもの姿が目に入り、
こどもの躍動するさまが生き生きと伝わってきます。

また玄関エントランスには「中丸子保育園の夢の樹」が大きく貼られ、本園のシン
ボリック的存在となっているようです。夢の樹には、中丸子保育園の保育目標が大きく貼
られ、職員はことあるごとに園目標を見返し保育の振り返りを行っています。

2. 毎年続く異年齢保育活動で思いやりの心を養う

本園の保育の特色は、異年齢の友達との関りを通じて、思いやりの気持ちを持てる
ようになることを目指していることです。各年齢毎に異年齢との交わりの仕方を目標
化して、年齢ごとの活動計画を立て、実行することにより、次第に人として思いやりの
心が養われて行くというものです。

お互いの遊びを見たり、真似をしたり、一緒にやることで、あこがれの気持ちを持
ったり、満足することで自信につながります。年間を通して朝の10分ほどの体操
と、のりのりの曲に合わせたマラソン、3、4、5歳児が3人トリオを組み行動を共に
します。盆踊り、移動動物園、わっしょい祭り、運動会ごっこ、みんなで遊ぼう会、
なかよしデー、にこにこデーなど、異年齢の遊びが毎週あります。遊びを伝えたり、
困っている友達に手を貸したり、思いやりの心が生まれてゆきます。本園が長年続け
ている試みです。成果が見られるから続けられている活動です。

3. 充実する地域の子ども、子育て、発達相談支援コーディネーターが相談にのる体
制

中原区「新たな公立保育園」のブランチ園である本園は、こども子育て支援の拠点
としてさまざまなプログラムを実施しています。コロナ禍で集合交流ができない中、
地域の保護者向けに「子育て何でも相談」〈月～金9：30～16：00〉、コロナで中
止していた「園庭開放」も11月から連日午後再開。ベビーカースルーの「貸出絵
本」は中断なく受け付け、玄関口で渡しています。対面交流ができない中、いろいろ
工夫しての取組みです。

また本園には発達相談支援コーディネーターの資格者が5名在籍し、クラス担当を
しながら発達障害で気になっている保護者の寄り添い、日常の子どもの困り感の相談
に気軽に応じています。年3回お便りを配布したりしています。

◇改善を求められる点

1. 建物も設備も古いが、特に危険な状態ではなく、逆に、保育内容の積極的な取組
みが優れた点の前面に出てカバーし、期待したい点は特に見当たりませんでした。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

園目標にもある通り、日々の活動ひとつひとつを大切にし、子どもたちが毎日ワクワクドキドキできる活動を、生き生きのびのびその子らしく取り組むことができるように、職員は子どもの気持ちに寄り添い保育を行っています。大切な子どもの命を預かる施設であることを第一に考え、子どもを取り巻く環境を十分に把握理解し、養護と教育が一体となった、個々の発達に応じた保育を心掛けています。集団の中でも一人一人の思いをしっかりと受けとめ、子どもの権利を保障していくことを大切にしています。また、家庭との連携を密にし、保護者との相互理解と信頼関係の中で、子どもの成長を共に喜び合うことができるよう努めています。

新たな公立保育所の機能強化に向けては、ランチ園として地域の子育ての拠点となるよう、地域支援事業や近隣の民間保育園との連携事業も進めています。

地域支援事業としては園庭開放や相談事業に取り組んでいます。民間保育園との連携については、会議の中での意見交換や公開保育などを通してお互いの保育の質の向上に努めています。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり